
心不全に伴う不整脈の治療戦略

心不全患者には上室性、心室性を含めて様々な不整脈が合併する。例えば、心房細動は心不全の進行に伴い発生頻度が増加する傾向にあり、心房細動が合併すると心不全は悪化していくため増悪因子とされる。また、心室不整脈、特に非持続性心室頻拍は、心不全患者の40%以上に合併するなど重要な予後規定因子である。心不全患者の死因の1/3以上は心臓突然死で、そのほとんどは心室頻拍(VT)または心室細動(VF)が原因である。したがって、慢性心不全患者における不整脈の管理は、生命予後改善のためにも重要な課題といえる。致死性不整脈に対する治療としては、ダウンストリーム治療の主役であった抗不整脈薬の限界が指摘されるようになり、植込み型除細動器(ICD)を中心としたデバイス治療が確実な予後改善治療として位置付けられつつある。一方、異常自動能やリエントリー性不整脈を惹起する心不全に伴う交感神経、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン(RAA)系の活性化、Caハンドリングの異常およびイオンチャネルの電気的リモデリングなどの因子を根本から是正するアップストリーム治療も注目を集めている。

このような状況を踏まえて、第27回日本心電学会学術集会の学術諮問委員会提言シンポジウムでは、「心不全に伴う不整脈の治療戦略」をテーマとして取り上げた。「循環器薬物治療実践シリーズ」としては記念すべき10冊目となる本書では、その講演内容を各演者の先生方にわかりやすく解説いただいた。各項では、「心不全に伴う不整脈の基礎と薬理」、「心不全に伴う心房細動の治療戦略および具体的な抗不整脈薬の選択方法」、「心不全に伴う心室不整脈の薬物およびデバイスを中心とした非薬物療法」、「心不全に伴う不整脈のアップストリーム治療や自律神経介入治療の展望」に関する最新の知見が紹介されている。

本書が日常の心不全および不整脈診療の参考になれば幸いである。

平成23年12月 日本心電学会学術諮問委員会

小川 聡

萩原 誠久

小野 克重

平岡 昌和
